

INGING RACE REPORT

SUPER FORMULA 2020

Round. **2** 岡山国際サーキット

予選

決勝

9月27日(日)

天候: 晴れ

コース状況: ドライ

開幕戦から4週間のインターバルを置き開催される第2戦。戦いの舞台である岡山国際サーキットは、38号車石浦宏明が初めてポールのトゥインを達成した思い出深いサーキット。この得意のサーキットで、昨年より苦戦しているSF19との闘いの成果を収めたいところ。皆が最良の結果を是が非でも得たいとレースに臨んだ。

#38 石浦宏明	予選6位	決勝2位
#39 坪井翔	予選8位	決勝1位



今戦も有観客開催。コロナ禍の新しい観戦スタイルにあわせスーパーフォーミュラファンが二日間に渡り最後まで観戦を楽しんだ。前日の2度の公式練習では、坪井が10番手、石浦14番手と振るわずに終わったが、チームはその時点で諦めずクルマを速くすることを探り続け、予選決勝日を終えた。

○公式予選

風は1コーナーからの向かい風。掲げられた旗などもかなり揺れる強さ。前日の練習走行からは、路面温度も5℃ほど上がり調整が必要となるコンディションとなった。第2戦のQ1も、開幕戦同様コース上の混雑を避けクリーンにアタック出来るよう2グループに分けられた。10時40分、オンタイムで予選がスタートした。



Q1 A組となった坪井から予選開始。ピットアウトし翌周からウォームアップに2周を要しタイヤを温めると、4周目に1分13秒181で2番手タイムをマーク、Q2へ進出した。B組の石浦もウォームアップで2周を使い丁寧に熱を入れ、1分13秒442で4番手と2台揃ってQ2へ進出した。

Q2 各グループ7台進出、合計14台により競われるQ2は、残り6分を切ったところで坪井が先にコースイン、少し間合いを取って石浦がピットアウトして行った。坪井は3番手、石浦8番手と2台揃ってQ3へと進む。

Q3 こちらも残り5分で石浦、坪井の順でコースインして行った。石浦は、1分13秒705で6番手。坪井は、上位グリッドが見込まれたが、風の影響を受けバランスを崩しパイパーコーナーでクラッシュ、8番手で予選を終えた。



午後の決勝まで時間はなく、メカニックたちはスタート開始に間に合わせるため、懸命に修復に取り組んだ。

○決勝

決勝レースは、51周で戦う。15時15分フォーメーションラップがスタート。各車が戻って来てグリッドに付くと赤旗が呈示された。フォーメーションラップ中にクラッシュした車両があった為で、その車両の回収の為にスタートがディレイとなった。それに伴い、レースの総周回数が50周へと減算された。

また、今回のレギュレーションではスタートしてから10周以降にタイヤ交換の義務付けが定められているが、その周回数に変更はなかった。スタートから思いがけずドライバーの集中力がますます必要となる展開。15時30分に再びフォーメーションラップが開始となりレース再開となった。

向かい風が強く吹くのは変わらず。シグナルがグリーンになると、一斉に1コーナーに飛び込んで行った。そんな中、2台のマシンが接触しクラッシュ。巻き込まれコースアウトした車両もありセーフティーカーが導入された。

この混乱のスタートには巻き込まれることなく6番手からスタートの石浦は3番手に、8番手からスタートした坪井は2番手に浮上した。

マシンの回収作業が終わると、8周目からレースがリスタートした。

トップ20号車に遅れることなく続く2台。果敢にオーバーテイクシステムを使う石浦は前を行く坪井に迫ったが抜くには至らず。9周目、石浦の後ろの1号車が猛追。横に並ぶもしっかり抑えきった。10周目を迎え、タイヤ交換の義務を消化できるようになり、中団の数台がピットに向かった。

11周目、2番手の坪井がピットに向かった。チームは2台のクルマのうち、前を走っているクルマにピット作業を先に終える権利を与えている。今回は2番手にいた坪井が先にピットイン。続けて12周を終えるとトップの20号車がピットインし石浦がトップとなった。先にタイヤ交換を終えた坪井は、タイヤもあたたまりアウトラップの20号車をヘアピンでパス。8番手にあがり、ピットインを終えたグループでは事実上のトップとなった。

ピット作業を終えてない38号車石浦は、コース上でトップ。石浦は、坪井とのマージンを広げることに務め、ここからはチーム内対決となった。ピット作業を終えトップに戻るには約33秒以上のマージンが欲しい所。

坪井は、各車がほぼピットインを終え19周目4番手、ここからピット作業未消化の上位3台を先頭に膠着状態が続く。

30周を終えると石浦がピットへ向かう。8.7秒のタイヤ交換作業でピットアウトをすると、坪井の前でコースに復帰。オーバーテイクシステムを使用し防戦するも、アウトラップの石浦には坪井の勢いは止めることができず3位を譲り4位となり走行を続ける。事実上ワンツー体制で戦いは続く。

ピットインを引っ張っていた上位のクルマ2台が48周、49周でピットに入ると、ついに坪井トップ、石浦2位のワンツー体制でチェッカー。坪井は、スーパーフォーミュラ2年目で初優勝を遂げた。石浦も久しぶりの2位表彰台獲得となった。

昨年SF19にクルマが変わってから苦労をした一年。なかなか結果に結びつかずにいたが一気に花開いた。チームの地道な努力により最良の結果を導いたことは、チームの自信にも繋がった。もう秋になるとは言えシーズン序盤、引き続き一丸となって戦績を積み上げていきたい。



ドライバー #38 石浦 宏明

「昨日の公式練習では、14番手と手応えは全くありませんでした。昨日の夕方、自分のコメントからエンジニアがとても細かな、0.何ミリ単位のこの違いを、改善の可能性があるかもと探ってくれました。それが今日のQ1に影響し、そこを探してくれたエンジニアはスゴイと思います。ただクルマが予選にきっちりあったものであるかと言えばそうとは言えず、予選には弱さがあり決勝に強いクルマに合わせていきました。しかし自分のドライビングもSF19に合わせ切れてないと認識しています。本来Q3まで残れなさそうな雰囲気だったクルマで、意地で残れたことが決勝の結果につながったと思っています。次の目標は、予選からきっちり詰めて結果を出したいです。」

決勝は、スタートで3番手にポジションをあげて、前の2台がピットに入ってからペースは良かったのですが、徐々に苦しくなってチームと無線でやりとりをしピットに入りました。ニック選手のペースが良いので、バトルをするよりも2台で逃げてしまおうという作戦でした。良いペースで走れるクルマだったことに感謝です。SF19になってから、初めて1-2取れました。結果としてはまだ飛び抜けた速さにはなっていないので、ポールが争えるような速さに行きたいです。3台クルマがあるのでそこはチーム全員でトライしたいと思っています」

ドライバー #39 坪井 翔

「予選は調子良かったので、これはポールも行けるのではと思いつつQ3まで行きました。自己ベストで来ていたのですが、風が出てきたのか突発的にリアが出てスピンクラッシュしてしまいました。結構クルマを壊してしまい、開幕戦でもクルマを壊してしまったので、みんなに迷惑をかけてしまったと思って心が折れました。ここから立ち直るのは結構大変でした。何とか1つでもポジションを上げ決勝では無理せず行こうと思ったら、1コーナーでのアクシデントには巻き込まれず2番手になることが出来たので、無理してでも勝ちたいと思いました。」

レース中、クルマが速くトップだった平川選手をオーバーカットしたり、石浦選手を抜いたり、キャシディ選手がプッシュしているときに自分もプッシュしたりという決勝でやらなくてはいけない仕事をきっちり出来たと思っています。チェッカーを受ける前、最終コーナーをまわった時は号泣していました。エンジニアからは、ここからスタートだから泣くなと言われ、下げていたバイザーを上げて涙を堪えました。初優勝とてもうれしかったです。引き続き応援をよろしくお願いします」



監督 立川 祐路

「2台なので前にいる方にピットの優先権があり、戦略が分かれました。坪井を先に入れる形を取り、石浦は引っ張る作戦になりました。平川はうちの2台両方には対応できないので、坪井が入ったからピットに入ったと思います。それで石浦は前が開けました。あとは坪井と石浦の二人の戦いになるので、各エンジニアに任せる形でした。どちらの作戦もうまく行くという理想的なレースだったと思います。こんなにうまく行くことも珍しいですね。決勝のペースも二人とも良かったですし、今日の坪井は自分のチカラで勝ち取るうれしい勝利だったと思います。正直、今日優勝するとは思ってなかったですが、決勝に向けてクルマが戦える状態だったし、二人の速さもありません。昨年からのクルマやタイヤが変わって苦戦をしていたので、これを機にチームのモチベーションもあがり、またチャンピオン争いに加われるよう頑張りたいと思います」

RESULTS

正式決勝結果 (上位10台)

Pos	No	Driver	Type	Car	Time/ Behind
1	39	坪井 翔	TOYOTA/TRD 01F	JMS P.MU/CERUMO INGING	1:13'11.975
2	38	石浦 宏明	TOYOTA/TRD 01F	JMS P.MU/CERUMO INGING	0.782
3	1	N.キャシディ	TOYOTA/TRD 01F	VANTELIN TEAM TOM'S	3.103
4	20	平川 亮	TOYOTA/TRD 01F	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	5.579
5	19	関口 雄飛	TOYOTA/TRD 01F	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	8.352
6	5	山本 尚貴	HONDA/MTEC HR417E	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	8.640
7	18	国本 雄資	TOYOTA/TRD 01F	carrozzeria Team KCMG	19.186
8	6	福住 仁嶺	HONDA/MTEC HR417E	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	20.459
9	36	宮田 莉朋	TOYOTA/TRD 01F	VANTELIN TEAM TOM'S	21.233
10	16	野尻 智紀	HONDA/MTEC HR417E	TEAM MUGEN	21.880